事業完了報告書

提出日:2023年 4月 11日

1	中光和田
	事未燃 安

- (1) 実行団体名:一般社団法人仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジ
- (2) 事業名 :愛知県におけるがん患者の就労支援モデル構築事業
 - ~医療と労働の連携を重視した包括的な就労支援体制の創出~
- (3) 事業実施期間: 2020年3月31日~ 2023年3月30日
- (4) 資金分配団体名:公益財団法人 日本対がん協会
- 2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック✔をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。
(1)事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑ 完了 / □ 整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備
状況が改善された点を記載してください。
事業実施前には整備されていなかったリスク管理規程、情報公開規程、文書管理規程、監事監査規程、事務局規程を作
成し、団体ウェブサイト上に公開した。
(2) 整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
図 全て公開した / □ 一部未公開 / □ 未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。
(3) 変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☑ 変更があり報告済 / □ 変更があったが未報告 / □ 変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績 いずれかにチェック♥をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

(1) 社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑ はい / 🗆 いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(2) 内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい / □ いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。(複数選択可)
☑ 内部に窓口を設置 / □ 外部に窓口を設置 / ☑ JANPIA の窓口を利用
(3) 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい / □ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(4) 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい / □ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(5) コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑ はい / □ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(6) ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☑ はい / □ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。
団体スタッフに加え、事業運営・事業評価のための人員を業務委託により登用し、ガバナンスの強化に努めた。また外
部アドバイザーを委嘱し、団体の事業運営体制や戦略的事業運営において助言を得た。
(7) 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。(実施予定の場合を含む)
☑ 外部監査 / □ 内部監査 / □ 実施予定もない ※(複数選択可)
→上記で「外部監査」または「内部監査」を選択した場合、その実施者を記載してください。
毎月の事業支出、経理簿の入力を外部に業務委託し、年度末の会計監査は税理士による外部監査を実施した。
(8) 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
□ はい / ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック♥をつけていただき、設問に回答してください。

(1) シンボルマークの活用状況

☑ 自団体のウェブサイトで表示している / ☑ 広報制作物に表示している

☑ 報告書に表示している / ☑ イベント実施時に表示している

□ その他

→「その他」を選択した場合は記載してください

(自由記述):

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有	内容
	無	
メディア掲載	有	・月刊「人事実務」2022 年 6 月号の特集『治療と仕事 両立にむけて』におい
(TV・ラジオ・新		て解説「なぜ必要?何が必要?治療と仕事の両立支援のために会社ができるこ
聞・雑誌・WEB		と」を代表理事が寄稿。(産労総合研究所発行:Pp.14-20)
等)		・月刊「We learn」2022 年 9 月号にて団体の活動を紹介。代表理事が寄稿(公
		益財団法人日本女性学習財団発行:Pp.8-9)
		・正力厚生会の助成を受けて作成する制度セミナーについて掲載(2022 年 9 月
		14 日、読売新聞朝刊)
		・『「治療」と「就労」どう両立するか?23 日、名古屋でシンポ』と題し、11 月
		23 日に開催するシンポジウムについて朝日新聞にて掲載(2022 年 11 月 8 日、
		朝日新聞朝刊)
		・医療面の掲示板欄にイベントの告知がなされた。(2022 年 11 月 8 日、中日新
		聞朝刊)
		・中京テレビにおいて当日のシンポジウムについてニュース番組にて紹介
		(2022 年 11 月 23 日中京テレビタ方情報番組)
広報制作物等	有	・第 19 回(22 年 5 月 15 日開催)、第 20 回(22 年 8 月 21 日開催)ブリッジ
		研究会のチラシを作成(各 2,000 部)
		・ワークショップチラシ(22 年後期分:10 月発行)を作成(3,000 部)
		・11 月 23 日開催のシンポジウム開催チラシを作成(4,000 部)
		・ブリッジ両立支援コーディネーター養成講座チラシを作成(300 部)
報告書等	有	・赤い羽根共同募金「令和3年度配分金事業報告書」(ブリッジ研究会、ワーク
		ショップ)を作成し、提出した。
		・団体成果報告書(2020-2021 年度)を発行(500 部)愛知県、名古屋市など
		の自治体、関連団体等に配布している。
		・11 月 23 日開催シンポジウム『医療と労働の連携の形から「治療とともに働
		く」を考える』実施報告書を作成した(200部)
		・正力厚生会助成事業実施報告書を作成、提出した。(2023 年 1 月)

5. その他(本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応 /あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。)

本助成の活動を通じ、特に医療分野でのネットワークが強化された。また、国の動きにより血液疾患の 就労支援が重点項目となったことから、拠点病院の講演に呼ばれるなど連携の土壌ができつつあり、 社会的ニーズに応じた連携支援を開始する糸口が見出せた。さらに、支援の度に必要な社会的資源を 開拓してきたことから、弁護士、リハビリセンター、自治体窓口、就労移行支援事業所など、この事業 で目指した「医療と労働の連携」の枠を超えたさまざまなステークホルダーへのつながりができ、より 一層効果的な支援を実践できるようになっている。引き続き支援者ネットワークの拡大を目指した活動に力を入れる。

【添付資料】

活動の様子がわかる写真 5枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を 5 枚程度(1 枚 2MB 以下)ご提出ください。(肖像権・著作権に十分にご注意ください。)

それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真(使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等)を選んでいただきますようお願いいたします。

11月23日開催シンポジウム『医療と労働の連携の形から「治療とともに働く」を考える』 名古屋市内の会場と Zoom ウェビナーでのオンライン配信のハイブリッドにて開催。 会場57名、オンライン138名の合計195名の参加があった。











YouTube チャンネルを開設し、

治療とともに働く方に有益な情報を 提供。団体ウェブサイトにも動画ペ ージを設置している。

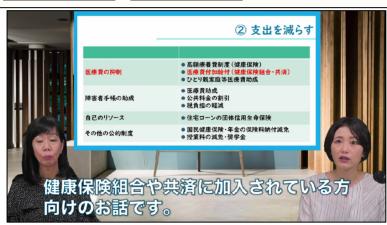
https://bridge-

nagoya.jp/bridge/movie/

(2022 年度は「休職中の収入が気になるあなたへ」をテーマに 4 本の動画を作成)



YouTube 動画中の1シーン (ニーズ 2 『休職中の収入が気になる あなたへ・前編』より)



両立支援をサポートする支援者を「ブリッジ両立支援ナビゲーター」と称し、E-Learningシステムを活用した人材育成のためのオンライン学習プログラム(ブリッジ両立支援ナビゲーター養成講座)を開講。

2023 年 1 月末までに 4 名の受講者が全 14 講座 を修了し、認定された。

<u>https://bridge-nagoya.jp/bridge/navigator/</u> 写真は講義の 1 シーン

